神々の郷に残る太古からのメッセージ
受け継がれる文化の遺伝子

市民の生活のなかに生き続ける歴史と文化・伝統

豊かな自然環境に恵まれた阿蘇には、独自の風土に培われた文化があります。

近年、地域文化資源や歴史的遺産への関心と学習意欲が高まっており、地域住民と連携し文化振興を推進しています。

阿蘇神社　（国指定重要文化財）

阿蘇神社は、延喜式に記載される古社で、中世には肥後国一の宮として崇敬され、孝霊天皇９年に初代阿蘇国造の速瓶玉命により創建されたと伝えられます。阿蘇開拓の祖神、健磐龍命をはじめ１２神をまつっており、末社は全国に５００社を超えます。平成１９年に一の神殿・二の神殿・三の神殿・楼門・神幸門・還御門の計６棟が国の重要文化財に指定されました。平成２８年熊本地震では、楼門が倒壊するなど重要文化財に被害が出たほか、拝殿などその他の歴史的建造物にも大きな被害が発生しましたが、令和５年１２月には倒壊前の元の部材７割を活かして組み立てられた楼門の復旧が完了し、元の姿を取り戻しました。

阿蘇の農耕祭事　（国指定重要無形民俗文化財）

火焚き神事

阿蘇神社や関係の神社では、稲の生育過程に沿った段階的な稲作儀礼が今に伝えられています。これらは、大自然の恵みに感謝する古の人々の素朴な祈りが“かたち”としてよく現れています。

この一連の祭りは、稲作儀礼の典型であると評価され、昭和５７年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

祭りの対象となる地域は、氏子区域を越えて阿蘇谷全体の広範囲に及んでおり、その素朴な祭祀と長閑な自然との調和は、古式ゆかしい風景を醸し出しています。

伝承の技は親から子へ、子から孫へ確実に受け継がれています。

中江の岩戸神楽（国選択無形民俗文化財）
横堀の岩戸神楽（市指定民俗文化財）

中江・横堀地区の神楽は、豊後神楽の系統で大分県から伝わったものとされています。中江の岩戸神楽は、明和２年（１７６５）に大野川流域の村々を経て、御嶽流の33座が継承されています。横堀の岩戸神楽は、文政６年（１８２３）には始まっており、深山流の13座が継承されています。

阿蘇の虎舞

阿蘇に伝わる虎舞は獅子頭で演じます。阿蘇神社に奉納される獅子舞に遠慮し、地域に受け継がれ、演じてきたものを虎舞と呼んでいます。厳しい生活の中、獲得した豊作への感謝と来年の豊作の願いを込め、農耕文化から誕生した芸能です。

歴史ある文化財

阿蘇の文化的景観
（国選定重要文化的景観）
長年にわたり人の手によって維持されてきた日本最大の草原景観で、牧野として利用されるほか、希少野生動植物にとって重要な生息域となっています。

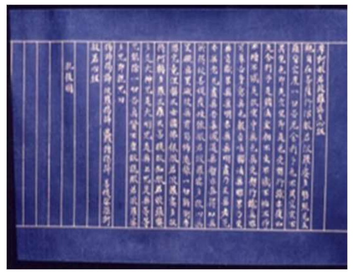
天神橋（市指定建造物）
弘化４年（１８４７）に架けられ、石工の卯助は霊台橋も手がけています。

豊後街道二重峠石畳
（国指定史跡）
九十九折の急坂を長さ約１．６km、幅約３ｍの道に側溝・水切り等が設けてあります。

阿蘇市の宝

阿蘇地方に人々の生活の痕跡が認められるのは、旧石器時代から（今から約２万年前）になります。連綿と続く文化の営みのもと、先人が築いてきた伝統文化・歴史遺産を後世に伝承し保護・啓発していくことは、阿蘇市のみならず世界人類の責務です。

阿蘇市内には国・県・市指定等の有形文化財40件、民俗文化財19件、記念物69件、文化的景観１件、合計129件があります。（令和6年2月現在）



紺紙金泥般若心経後奈良院宸翰
（国指定重要文化財）
後奈良天皇が諸国の一の宮に奉納し国家の安泰と国民の幸せを祈ったものです。

乳の木
（市指定天然記念物）
樹幹５．４ｍ、樹高２９ｍ、樹齢２００年以上と伝えられています。

中通古墳群
（県指定史跡）
前方後円墳２基と円墳８基による熊本県を代表する古墳群です。

西巌殿寺山上本堂の仏像
（県指定彫刻）
本尊は健磐龍命の本地仏の現存最古のもので樟材の一木造。平安時代後期頃の作品です。

米塚及び草千里ヶ浜
（国指定名勝及び天然記念物）
神話や詩歌の源泉となった優美な風致景観で、阿蘇山噴火史の特質を示す２つの火山として重要です。